Title	社会的な観点から見た日本語とタイ語におけるゼロ代名詞
Sub Title	Zero Pronoun in Thai and Japanese : from the social point of view
Author	Singkarin, Kanok
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	2002
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.82, (2002. 6) ,p.186(183)- 201(168)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00820001-0201

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

社会的な観点から見た日本語と タイ語におけるゼロ代名詞

カノック シンカーリン

1 はじめに

会話、特に二人の間の会話では、自分および相手を指すことばが省略される場合が多い。ここに、例として、日本語とタイ語の文章を挙げる。

A : ϕ_1 行かないの。

A : ϕ_1 m $\ddot{a}$ i pai r $\ddot{u}$ tt.
否定 行く 疑問

B : ϕ_2 行かない。 ϕ_3 行かないほうがいいよ。

B : ϕ_2 m $\ddot{a}$ i pai. ϕ_3 y $\ddot{a}$ a pai dii kw $\ddot{a}$ a n $\ddot{a}$.
否定 行く 禁止 行く 選択 終

ここで、 ϕ_1 は B を指し、 ϕ_2 および ϕ_3 はそれぞれ B が自分および A を表すものである。また、 ϕ は、それらに対応することばが省略されていることを示す記号である。この例では、文章の中に話者と聞き手を表すことばが使用されていないが、文章の意味が通じ、会話が成立している。

文中に自分および相手を表す代名詞が省略されることは、日本語とタイ語の双方に見られるものである。しかしながら、両方の言語において、ことばを省略する条件が完全に一致するとは言い切れない。なぜならば、もしそうであれば、タイ人が日本語の文章を読むときなど、その文章の省略された代名詞が何を表すかというような疑問は生じないはずである。更にタイ人の日本語学習者は、初級の教科書に載った「わたし」と「あなた」を習ったため、日本語の講師に対して「あなたの住所を教えてください」

次の三つのことを考える必要があると述べている。それは、自分と話し相手や第三者との親疎関係、社会的な立場、上下関係である。この三つのことが非常に親密な関連をもち、どれが最も大切であるかを決定することは困難である。場合によって、話し手がその場に適切な代名詞を見つけることができずに、仕方なく代名詞を省略することもある。

日本語では、鈴木（1971）は日本語の人称代名詞の使い方について以下のように述べている。

ヨーロッパ諸語をはじめとし、アラビア語でもトルコ語でも、人称代名詞の主たる働きは、会話の話し手、聞き手がいまだれであるかを明示するだけのものであった。これに反して、日本語の対人関係用語は話し手と聞き手との間に存在する親疎の度合い、年齢の差、地位の上位、男女の別などの、非常に具体的な人間関係に基づいて選択がきまる実質詞なのである。

代名詞の省略については、鈴木（1973, p. 145）によると、日本人はできるだけ会話の中で人称代名詞を使わないで済まそうとする傾向が強いという。Mochizuki（1980）は、女性の話しことばにおいて、代名詞の省略が他の一人称代名詞の使用よりも丁寧さと正式さを表現できると述べる。更に、パン（1975）は、代名詞を使用するか、もしくはそれを省略するかによって心的距離を表すことになると主張する。

従って、タイ語でも日本語でも、代名詞の省略は様々な要因に深く影響されると考えられる。しかし、上述のタイ人の日本語学習者に生じた問題から考えると、タイ語と日本語の代名詞の省略に影響される社会的な要素にはそれぞれ違いがあって、また重点となる要素が異なるのではないかという仮説が設けられる。

本論文では、話し手と話し相手を指す代名詞の省略、すなわち、**ゼロ代名詞**、を中心に検討する。まず、タイ語および日本語において話者の性別によるゼロ代名詞の使用を考察し、上下関係、親疎関係などのような社会的な要素による省略条件が存在するかを追求し、日・タイの会話における代名詞の省略条件を比較検討することを目的としている。

なお、本論文で扱う代名詞は、話し手を指す人称代名詞（すなわち、自称詞）と聞き手を指す人称代名詞（すなわち、対称詞）の二つであり、その範囲を固有代名詞、親族名称、職業名称、称号、個人名などを含めたものとする。

本論文において、ゼロ代名詞について検討する際、日本とタイの小説からゼロ代名詞を観察し、それを元にしてアンケートを作成する。アンケートの結果を用いて、タイ人および日本人がどのような話し相手に対してゼロ代名詞を使うか、またその理由を調べる。そして日・タイの社会と文化に反映するゼロ代名詞の使用を比較検討する。

2 ゼロ代名詞の調査用アンケート

小説よりとった例を分析した結果（ただし、ここではこれを省略している）、話し手と聞き手との年齢差、社会的地位の違い、親疎関係などがゼロ代名詞の使い方に影響する重要な要因であることがわかった。これを参考にしてゼロ代名詞の使い方を調査するためのアンケートを次のように作成する。

2.1 アンケートの構成

まず、アンケートを回答する人に対し、聞き手、すなわち会話の相手を知り合い及び初対面の二種類に分ける。相手が知り合いの場合、タイに18項目、日本に17項目に分類し、一方、初対面の場合、タイおよび日本にそれぞれ7項目に分類する。詳しくは下記の通りである。

●知り合いの場合：

1. 親しい近所の人で、社会的地位が自分より高い
2. 親しい近所の人で、社会的地位が自分より低い
3. 親しい近所の人で、社会的地位が自分と同じぐらい
4. 親しくない近所の人で、社会的地位が自分より高い
5. 親しくない近所の人で、社会的地位が自分より低い
6. 親しくない近所の人で、社会的地位が自分と同じぐらい

7. 同じ学校で勉強する／した親しい人
 8. 同じ学校で勉強する／した親しくない人
 9. 教わったことのある教師
 10. 教わったことのない教師
 11. 親しい同僚
 12. 親しくない同僚
 13. 親しい会社の目上の人
 14. 親しくない会社の目上の人
 15. 親しい会社の目下の人
 16. 親しくない会社の目下の人
 17. 学校／会社のガードマンや掃除をする人
 18. 友人の家のメイド（タイの場合のみ）
- 初対面の場合：
1. 道を教えてくれる人
 2. 警官
 3. 区／市役所の人
 4. ウェーター／ウェイトレス
 5. デパートの店員
 6. 屋台の人
 7. タクシーの運転手

なお、知り合い相手の場合において、タイと日本との異なる点は「メイド」の項目である。タイの社会において、メイドに対する手当がそれほどに高くないので、高級から中級の家庭にはまだメイドを雇う余裕がある。また、多くのタイ人女性が結婚して子供を生んだ後、仕事をやめず働き続けるため、家事のお手伝いさんが必要となる傾向がある。今でもほとんどのメイドが家主と一緒に住み込みというのが現状である。以上の理由で、「メイド」という項目をタイの場合のアンケートに加えた。

また、具体的にどのような相手に対してゼロ代名詞がよく使われるかを調査するため、以下の条件をつけ、アンケートを構成する。

- 性別：** 聞き手の性別がゼロ代名詞の使い方に影響するか。
- 年齢差：** 聞き手の年齢が話し手の年齢と比較して、「かなり上」、「上」、「同じぐらい」、「下」、「かなり下」という五つの違った条件を立てた。
- 親疎関係：** 相手が知り合いの場合、「親しい」および「親しくない」という親疎距離の条件を設けた。
- 社会的地位：** それぞれの項目において、社会的な上下関係をつけた。
- 省略の理由：** それぞれの項目において、ゼロ代名詞が存在するとき、なぜ自分を指す代名詞を使わないのか、また、なぜ相手を指す代名詞を使わないのかという質問を加えた。

2.2 アンケート回答者のデータ

本論文では、アンケート調査の対象となる回答者を次のように限定する。タイの場合、回答者は少なくとも一年以上バンコク、またはその周辺（ノンタブリー県、パトゥムターニー県など）に在住している人に限った。一方、日本の場合は少なくとも一年以上東京、およびその周辺（神奈川県、千葉県など）に住んでいる人に限った。調査に参加したアンケート回答者の年齢および職業の詳細を表1と2に示す。

表1：アンケート回答者の年齢

年齢	タイの場合		日本の場合	
	男	女	男	女
20—29才	29	38	9	59
30—39才	55	39	37	17
40—49才	12	20	21	7
50才以上	5	3	21	9
計	101	100	88	92

表2：アンケート回答者の職業

職業	タイの場合		日本の場合	
	男	女	男	女
会社員	87	80	77	59
大学教師	7	2	4	6
公務員	2	5	4	2
大学生	1	3	—	11
自営業	1	3	1	—
医師	1	—	1	1
定年者	1	—	1	—
アルバイト	1	—	—	1
主婦	—	5	—	4
大学院生	—	2	—	8
計	101	100	88	92

3 アンケート調査の結果と分析

3.1 性別

●回答者の性別

アンケート結果によれば、タイの場合では、女性が男性より自称詞を省略することが多い（女：17.58%／男：5.45%）。一方、日本の場合では、女性と男性がほぼ同じように自称詞を省略している（女：10.18%／男：11.24%）。

これに対して、タイ人女性は男性より対称詞を省略する傾向がある（女：7.05%／男：5.73%）。また、日本の場合にも同じ傾向が見られる（女：31.67%／男：21.87%）。

男性の場合、タイ人男性の自称詞の省略および対称詞の省略がほぼ同じくらいである（ゼロ自：5.45%／ゼロ対：5.73%）。一方、日本人男性の場合、自称詞よりも対称詞の方が省略される（ゼロ自：11.24%／ゼロ対：21.87%）。

女性の場合、タイ人女性は、対称詞よりも自称詞をよく省略する（ゼロ自：17.58%／ゼロ対：7.05%）。一方、日本人女性は、反対に対称詞の方をよく省略する（ゼロ自：10.18%／ゼロ対：31.67%）。

●回答者と話し相手との性別の違い

タイ人の場合では、同じ性別でも（ゼロ自：11.51%／ゼロ対：6.38%）、異なる性別の話し相手でも（ゼロ自：11.46%／ゼロ対：6.40%）、自称詞が対称詞よりも省略される傾向がある。逆に日本人の場合では、同じ性別でも（ゼロ自：10.90%／ゼロ対：26.82%）、異なる性別の話し相手でも（ゼロ自：10.50%／ゼロ対：26.94%）、自称詞よりも対称詞の方がよく省略される。

以上の結果より、明らかに話し相手の性別は、回答者のゼロ自称詞およびゼロ対称詞の使用にはほぼ同じように影響するが、タイ日における影響は反対であることがわかる。

3.2 年齢

タイ人は自称詞を省略するのに年齢が関係している。具体的には、相手の年齢がかなり上だと10.76%、話し手より上だと10.94%、話し手と同じぐらいだと12.97%、話し手より下だと10.65%、話し手よりかなり下だと12.12%という割合で自称詞が省略される。

これに対して、日本人は相手の年齢がかなり上だと10.13%、上だと10.21%、同じぐらいだと10.71%、下だと11.17%、かなり下だと11.27%で自称詞を省略する。つまり、日本人の自称詞の省略は、相手の年齢によってわずかな変化があるのである。

ここでわかったことは、タイ人と日本人が同じぐらい自称詞を省略するが、タイ人は特に同年齢ぐらいの人とかなり年下の人に対して大いに自称詞を省略するのである。

対称詞の場合も上と同様な結果が得られた。タイ人の話し手にとっては、相手の年齢がかなり上だと4.60%、話し手より上だと4.26%、話し手と同じぐらいだと7.73%、話し手より下だと7.06%、話し手よりかなり下だと8.29%の割合で対称詞を省略する。

日本人の話し手にとっては、相手の年齢がかなり上だと26.88%、話し手より上だと26.77%、話し手と同じぐらいだと26.91%、話し手より下だと26.88%、話し手よりかなり下だと26.97%で対称詞が省略される。

これを見ると、タイ人は、対称詞を省略する割合が日本人のそれより非常に低く、相手の年は上であれば上ほど、対称詞を省略しないようにするとわかった。

次に、相手との親しさおよび社会的地位が異なれば、話し手が相手の年齢を考えながら、ゼロ代名詞をどのように使うか詳しく調べてみた。結果は以下のものである。

●タイの場合：

一親しい相手

- *社会的地位が高い(項目1, 9, 13)：年がかなり下の相手に対し、ゼロ代名詞がよく使われる。

- *社会的地位が低い（項目 2, 15）：2 では、同年齢とかなり年下の相手に対し、代名詞がよく省略されるが、15では、かなり年上の相手に最も多く自称詞が省略される。
- *社会的地位が同じぐらい（項目 3, 7, 11）：同年齢およびかなり年下の相手に対し、よくゼロ代名詞が使われる。

—親しくない相手

- *社会的地位が高い（項目 4, 10, 14）：年齢がかなり下の相手に対し、よくゼロ代名詞が使われる。
- *社会的地位が低い（項目 5, 16, 17, 18）：同年齢の相手に対し、代名詞がよく省略されるが、特に自称詞を多く省略するのはかなり年上の相手である。
- *社会的地位が同じぐらい（項目 6, 8, 12）：かなり年上、同年齢、かなり年下の相手に対し、よくゼロ代名詞が使われる。
- *初対面（項目 1-7）：自称詞と対称詞がよく省略されるのは同年齢の相手であるが、2 では自称詞と対称詞が多く省略されるのはかなり年下の相手である。

●日本の場合：

—親しい相手

- *社会的地位が高い（項目 1, 9, 13）：ほとんど同様であるが、13では、年齢がかなり上および年上の相手に対し、多くゼロ対称詞が使われる。
- *社会的地位が低い（項目 2, 15）：相異がないが、年上とかなり年上の相手に対し、ゼロ対称詞がよく使われる傾向がある。
- *社会的地位が同じぐらい（項目 3, 7, 11）：同年齢からかなり年下までの相手に対し、よくゼロ対称詞が使われる。

—親しくない相手

- *社会的地位が高い（項目 4, 10, 14）：結果がほとんど同様であるが、14では、年がかなり上と年上の相手に対し、よくゼロ対称詞が使われる。

* 社会的地位が低い (項目 5, 16, 17) : ほとんど違いが見られないが, 5 では, 同年齢からかなり年下の相手に対し, ゼロ自称詞がよく使われると同時に, かなり年上と年上の相手にゼロ対称詞が使われる。

* 社会的地位が同じぐらい (項目 6, 8, 12) : かなり年上と年上の相手によくゼロ対称詞が使われる。

* 初対面 (項目 1-7) : ほとんど同様な結果が得られたが, 6 では, 同年齢, 年下, かなり年下の相手に対し, 対称詞をよく省略する。

タイ人は相手の年齢と社会的地位によって, ゼロ代名詞の使い方が異なっている。特に, 役割の対立 (role conflict) が存在するとき, ゼロ代名詞を使う頻度が高くなると見られる。例えば, 年下の話し相手で社会的地位が話し手より高い場合, 年上もしくは同年齢の話し相手で社会的地位が話し手より低い場合, または, 話し相手の社会的地位および年齢が話し手とほぼ同じぐらいで話し手はその相手の正体を確定できない場合などである。これらの場合では, タイ人は適切な代名詞を選択しにくいので, ゼロ代名詞を使う傾向が多いのである。

日本人の場合では, 親しさと社会的地位の違いがあっても, 話し手の年齢によって, 使用されたゼロ代名詞, 特に, ゼロ対称詞があまり変化がない。しかし, 話し相手の社会的地位がほぼ同じぐらいだと, 親しい話し相手に対して, 同年からかなり年下の相手までに対し, よくゼロ対称詞が使われるのに対し, 親しくない話し相手に対してはかなり年上と年上の相手によくゼロ対称詞が使われる。

初対面の場合では, タイ人は警官を除いて同年齢の話し相手にもっとも代名詞を省略する。警官と話す時, 特に, かなり年下の警官によくゼロ代名詞を使う傾向がある。タイの社会では, 警官はある程度, 社会的な立場が高くみなされているから, かなり年下の警官に話す時は一種の role conflict で, 適切な代名詞を選択しにくいと考えられる。

一方, 日本人は初対面の相手に年齢差があっても, ゼロ代名詞の使い方がほとんど変わらないことがわかった。屋台の人の場合のみ, 対称詞がよ

く省略されたのは同年齢，年下，かなり年下の話し相手である。もともと，屋台の人がほとんど年上の人が多く，それに，デパートの店員のような正式な場面よりも親しみを表せるから，「おじさん」，「おばさん」などのような嘘構的親族名称がよく使われると考えられる。

3.3 親疎関係

親疎関係によるゼロ代名詞の使用に関しては，次のような結果を得た。タイ人は親しい相手と話す時，自称詞と対称詞の省略はほぼ同じぐらいである（ゼロ自：4.94%/ゼロ対：4.49%）。だが，親しくない相手に対して，対称詞よりも自称詞を多く省略する（ゼロ自：9.95%/ゼロ対：5.51%）。

一方，日本人の場合では，反対に自称詞よりも対称詞の方が多く省略される。親しい相手には自称詞の省略が6.17%で，対称詞が12.90%に対して，親しくない相手には自称詞の省略が7.15%で，対称詞が17.11%である。タイ人と日本人との同様点は，親しい相手よりも親しくない相手に対して自称詞と対称詞を省略する傾向が多いことがわかった。

3.4 社会的地位

相手の社会的地位の要因で見られるゼロ代名詞の使用は，以下のような結果が得られる。自分より社会的地位が高い相手と話す場合では，タイ人は自称詞を6.37%省略するのに対し，対称詞を3.89%省略する。一方，日本人は自称詞を5.19%，対称詞を12.97%省略する。

社会的地位が同じぐらいの相手の場合では，タイ人は，自称詞および対称詞をそれぞれ6.24%と4.64%省略する。これに対して，日本人は，自称詞を6.98%省略し，対称詞を14.77%省略する。

自分より社会的地位が低い相手の場合では，タイ人は自称詞を10.56%省略するのに対し，対称詞を6.64%省略する。一方，日本人は自称詞を8.13%省略するのに対し，対称詞を18.16%省略する。

以上の結果において，タイ人は日本人と反対に自称詞を対称詞より多く

省略するが、タイ人と日本人は同様に相手の社会的地位が低ければ低いほど自称詞と対称詞を多く省略する傾向があるとわかった。

3.5 初対面の話し相手

タイと日本とともに、初対面の相手の中で、自称詞の省略がもっとも少ないのが警官および区市役所の人である。これに対して、対称詞の省略においては、タイ人が警官に対する対称詞の省略が少なく、日本人は、タクシーの運転手に対する対称詞の省略がもっとも少ないことがわかった。タイ人と日本人は同様に、警官と区市役所の人々の立場が自分よりも高いと見ているため、省略するよりも丁寧で正式な自称詞を選んだ方が適切だと考えられる。それに、タイ人は警官に対して、「khun tamrùat (お巡りさん)」または警官の位を代名詞としてよく使っており、日本人はタクシーの運転手に対して、「運転手さん」をよく使っているのである。

平均的に見ると、タイ人は知り合いの相手と話す時、自称詞を7.73%省略するのに対し、対称詞を5.06%省略する。日本人は自称詞を6.69%省略し、対称詞を15.13%省略する。

タイ人は初対面の相手と話す時、自称詞および対称詞をそれぞれ21.15%、9.82%省略する。一方、日本人は自称詞を20.43%省略し、対称詞を55.41%省略する。

アンケートの結果により、タイ人および日本人が同様に、知り合いの相手よりも初対面の話し相手に代名詞をよく省略することがわかった。特に、ゼロ代名詞の使用によって日本人は知り合いと初対面との領域をはっきりしていることが明らかである。

4 結論

本論文では、タイ語および日本語のゼロ代名詞をアンケートを通し、観察した。ここでは、調査結果により、結論を述べる。

4.1 タイ日のゼロ代名詞の使用

両言語におけるゼロ代名詞の使用傾向と相違点などが以下のように挙げられる。

●両言語におけるゼロ代名詞の使用の相違点

1. タイ語は対称詞よりも自称詞の方を省略する傾向が多いのに対し、日本語は対称詞をよく省略する。
2. タイ人にとっては特に役割の対立 (role conflict) があれば、ゼロ代名詞を使う頻度が多くなると見られる。例えば、下記の場合が挙げられる。
 - 話し相手が社会的地位が話し手より高いが、年下である、
 - 話し相手が社会的地位が話し手より低いが、年上もしくは同年齢である、
 - 話し相手の社会的地位および年齢が話し手とほぼ同じぐらいであることによって、その相手の正体、立場を確定できない。一方、日本人の場合では、話し相手との年齢差によってゼロ代名詞の使用に変化がほとんど見られない。
3. 話し相手は目上であり、または社会的地位が自分より高い場合、タイ人は相手に対する敬意を表すため、自称詞と対称詞を頻繁に使う傾向がある。しかし、日本人の方は敬語が使えるため、目上や社会的地位の高い相手に対し、対称詞をほとんど使わない。

●両言語におけるゼロ代名詞の使用の共通点

1. タイおよび日本の女性は男性よりもゼロ代名詞を使う傾向がある。
2. 初対面の人、特に臨時的な関係の話し相手にゼロ代名詞を多く使用する。
3. 親しい相手よりも親しくない相手の方にゼロ代名詞がよく使われる。

4.2 社会・文化に反映するゼロ代名詞の使用

更に、よく言われるように、それぞれの言語がその国の社会や文化を反

映するということで、タイ語および日本語におけるゼロ代名詞の使用法も両国の社会・文化に次のように反映すると考えられる。

1. **男女の不平等**：本論文の結果により、タイと日本とともに女性の方は男性よりも代名詞を省略する傾向が多いとわかったため、これは両国における男女の立場が不平等であることに関係があると考えられる。タイ人女性が自称詞をよく省略する理由としては、タイ語において女性の自称代名詞が男性のそれと比べて数多く存在し、男性の「phǒm」のような中間的な代名詞が存在せず、場面や相手に合わせて適切な代名詞を選択する必要が生じ、そこで相手に失礼にならないように代名詞を省略することが多くなるからだと考えられる。一方、日本語の場合には比較的男性の自称代名詞が女性のそれより多くあるが、両性がほぼ同じように自称詞を省略し、また、女性是对称詞を男性よりよく省略するという結果になる。これはタイ日の両方の社会が同様に女性の丁寧さを期待しているというわけである。Sethoo (1989, p. 110) はタイ社会の女性の立場はラッタナコーシン時代(1782年)から1932年の政治改革まで、明らかに男性より低く、柔軟な性格をもつようにと期待された。例えば、よい女の性格として、ことばづかいがやさしいこと、相手を尊敬し自分をへり下ること、手をゆるめること、礼儀正しいことなどが挙げられる。日本の場合も牧野(1996, p. 122) が述べたように、女性は、対称代名詞をあまり使わないのは「相手をあらわに目下と認定しないで、相手中心の共感的なコミュニケーションをするためではないか」ということで、明らかにゼロ代名詞は男女の不平等を反映するのである。
2. **タイの個人主義と日本の世間体**：タイ人は自称詞を対称詞より多く省略するということはタイ人の個人主義を大切にすることに関連があると考えられる。つまり、ものごとについて自分を中心に考える価値観があるのである。一方、日本人は自称詞よりも対称詞を多く省略するのは世間体を大切にすることに関連があると思われる。というのは、対称詞を使わない理由としてアンケートによる回答の多くが相手に失

礼にならないようにという答えであり、自分よりも相手を中心に考えるのである。これに対して、タイ人の回答にはそのような答えが比較的少ないため、タイ人より日本人の方は他人の目に自分がどのように映るかを気にすることがわかった。

3. **目上を大切にする価値観**：目上に対し、役割の対立を除いて、タイ人は明確に自称詞と対称詞を使い、日本人が敬語を使うことによって対称詞を省略できるということは、両国の社会では、同様に目上を大切にすることが見られる。アンケートにより、親しいか親しくないかにかかわらず、目上に敬意を表さなければならないという回答が多かったことから明らかである。
4. **タイの階級と日本のウチ・ソトの考え**：検討の結果により、タイ人はゼロ代名詞を使うかどうかと判断する段階に相手の社会的地位がとても大事な要素であることがわかった。タイの社会では、「phūdii (上流階級の人)」、「khiikhāa (奴婢)」ということばがあるように、生まれ、氏族、金銭などで人間の階級が決められることである。だから、自分と相手の社会的地位を考えた上で、代名詞を使うか、ゼロ代名詞にするかを判断できると考えられる。日本の場合では、アンケートの回答によると、既知に対するゼロ代名詞を使う理由は礼儀のためであり、初対面の人に対するゼロ代名詞を使う理由は代名詞を使うほどの会話をしないという答えが多かったのである。しかし、それぞれの場合に対するゼロ代名詞の使用率を見ると、日本人は既知の人と初対面の人との領域をはっきり分けていることが明らかである。これにより、日本語において既知と初対面の人に対するゼロ代名詞の使用がウチとソトの峻別が反映されると考えられる。
5. **親疎という概念の相違**：アンケートの結果により、タイと日本との親しい相手に対するゼロ代名詞の使用率がかなり異なるのは、まず、日本人はゼロ代名詞をタイ人よりも使う傾向が多いためであり、もう一つの原因はタイ人と日本人の「親疎」という概念が異なっているからではないかと思われる。堀江 (2000, pp. 108-129) によると、タイ

と日本の「親友」の概念が違っている。これは、タイ人にとって「親友」というのはなんでも遠慮なく頼んだり、相談したりすることのできる相手である。一方、日本人の「親友」の概念はタイ人より狭く、対人距離が遠いと示している。本論文の調査結果においてもこのような違いが見られる。

注

(1) 女性が目上の人に対して話すときに使う一人称代名詞

参考文献

- [Mochizuki 1980] Mochizuki, Michiko. (1980). "Male and Female Variants for 'I' in Japanese: Cooccurrence Rules," *Papers in Linguistics*, 13, pp. 453-474.
- [Panupong 1985] Panupong, Vichin. (1985). "Structure of Thai Language," Ramkhamheang University Press.
- [Settho 1989] Settho, Rachaneekorn. (1989). "Structure of Thai's Social and Culture," Thaiwattanapanit, Bangkok.
- [Thommayantii 1993] Thommayantii. (1993). "Khuukam (1)," Na Banwannakam, Bangkok.
- [鈴木 1971] 鈴木孝夫. (1971). 「自分及び相手を指すことば—言語社会学の一課題」, 『学術月報』, Vol. 23, No. 12, pp. 13-17.
- [鈴木 1973] 鈴木孝夫. (1973). 「人を表すことば」, 『ことばと文化』, 岩波書店.
- [トムヤンティイー 1987] トムヤンティイー著・西野順治郎訳. (1987). 『メナムの残照 (上)』, 財団法人大同生命国際文化基金.
- [パン 1975] パン F. (1975). 「日本人の心的距離—その言語表現の仕方について」, 『言語学』, Vol. 4, No. 1, pp. 27-35.
- [牧野 1996] 牧野成一. (1996). 『ウチとソトの言語文化学』, 東京, アルク.
- [堀江 2000] 堀江・インカピロム・ブリーヤー. (2000). 『マイペンライ (2)』, 国立国語研究所, 東京, くろしお出版.